仙台白百合女子大学

学修支援センター報

第 11 号

2024 年度

仙台白百合女子大学　学修支援センター

第 11 号（２０２４）

目　　次

学修支援部門

2024 年度 学修支援センター報告…… 1

講演会：

青年期における肥満とやせの健康障害と対応について… 大久保　剛（健康栄養学科　教授）…… 3

講演会：知らないと損をするタバコの話…… 大久保　剛（健康栄養学科　教授）…… 4

GS 学科企画　英語勉強会…… 熊谷　治子（グローバル・スタディーズ学科　准教授）… 5

GS 学科企画　福井由美子さん講演会…… 齋藤　陽（グローバル・スタディーズ学科　職員）… 6

教職課程研究センター共催　白百合教師塾 …… 岡　敬一郎（子ども教育学科 教授）…… 7

ツリー飾りつけとシュトーレン試食…… 神田　あづさ（健康栄養学科　教授）…… 8

宗教委員会共催　クリスマスリースづくり…… 佐藤　一樹（宗教委員会）…… 9

キャリアリソース課主催　セミナー報告…… 八木田　僚（キャリアリソース課　職員）…… 10

学生相談部門

2024 年度 学生相談室報告 …… 茂木　千明（心理福祉学科 准教授）…… 12

第 63 回学生相談セミナー報告…… 茂木　千明（心理福祉学科 准教授）…… 15

第 62 回全国学生相談研修会に参加して…… 伊藤　律子（学生相談室カウンセラー）…… 16

学修支援部門

2024年度　学修支援センター 報告

１．概要

学生が４年間の大学生活の中で養うべき基礎的な資質の習得を支援すると共に、適切な支援のあり方や方法に関する研究を行う場として2014年４月に２号館１階に設置された、今年で 11 年目の組織である。2024 年度から新しくグローバル・スタディーズ学科 熊谷治子センター長の下、センター会議を開き、各委員には学生の学修に関する企画を依頼するとともに、関係部署と連携をとった運営を行った。

2025年６月からは総合センターとして新しいセンターに統合される予定である。

２．スタッフ

1　センター長	グローバル・スタディーズ学科	熊谷　治子　准教授
2　センター員	心理福祉学科／学生相談室　主任	茂木　千明　准教授
4　センター員	子ども教育学科	松好　伸一　講師
5　センター員	健康栄養学科	大久保　剛　教授
6　センター員	学生課	石岡　宏美　次長
7　センター員	キャリアリソース課	泉田　礼子　次長
8　センター職員	学生課兼任	山口　普子

３．利用状況

（１）利用者

2 号館は学生が授業で使用する建物からは少し離れた場所にあり、静けさを求めて学生がいる。また、学生相談室利用者の居場所や相談前の待ち時間場所としても利用される。

（２）コーヒー自販機

	4　月	5　月	6　月	7　月	8　月	9　月	10 月	11 月	12 月	1　月	2 月	3 月	計
2024	58	45	53	9	14	9	―	―	―	―	―	―	183
2023	77	65	78	88	55	54	59	65	44	44	37	20	686

コーヒー自販機は品質保持が難しいことから、10 月に撤去となった。

４．活動状況

（※企画外）

開催日	企画名等	開催時間
4 月～	※新入生用ガイダンス動画配信	
4 月 8 日(月)～17 日(水)	前期履修相談	
5 月 14 日(火)	プランター整備	11：00～12：00
5 月 20 日(月)～7 月 5 日(金)	2025 白百合教師塾	中止

開催日	企画名等	開催時間
6 月 28 日(金)	七夕飾りづくり	13：00～14：30
7 月 2 日(火)	講演会（GS）	10：40～12：10
8 月 9 日(金)	講演会（健康栄養）	14：00～16：00
9 月 19 日(木)～9 月 26 日(木)	後期履修相談	
11 月 28 日(木)	クリスマスツリー飾りつけ＆シュトーレン試食	12：15～12：50
12 月 3 日(火)	リース素材あつめ	13：30～14：00
12 月 4 日(水)	クリスマスリースづくり	12：40～14：30
12 月 16 日(月)	英語勉強会　カリグラフィ	10：40～12：10 12：10～13：00
1 月 6 日(月)	講演会（健康栄養）	17：00～18：30
2 月 12 日(木)～13 日(金)	2025 白百合教師塾 （教職課程研究センター、子ども教育）	9：00～12：00
2 月 20 日(木)	就活スタートアップセミナー（キャリアリソース課）	10：00～13：00
2 月 21 日(金)	就活プレミアムセミナー（キャリアリソース課）	9：30～16：30

５．ピアサポーター

教員や学科による企画等の補助を目的として、ボランティアのピアサポーターを前期と後期ともに Google フォームにより募集を行った。健康栄養学科 2 年生 4 名から申し込みがあり、企画補助として協力してくれた。

青年期における肥満とやせの健康障害と対応について

～ヘルスリテラシー向上の重要性～

健康栄養学科　大久保　剛

2024 年 8 月 9 日、神奈川工科大学特任教授、元日本大学医学部小児科診療教授の岡田知雄先生による青年期の肥満とやせについて講演会が行われた。

本講演会では、学校現場における健康課題として近年顕著になってきた「肥満とやせ」に焦点を当て、長年小児肥満と生活習慣病予防に取り組んできた専門家による講演が行われた。とくに新型コロナウイルス感染症の流行により、成長期の子どもたちの身体活動の減少、食生活の変化、精神的ストレスなどが重なり、「肥満とやせ」の両極端な健康問題が浮き彫りとなっている現状が指摘された。

講演はまず、肥満と肥満症の定義と変遷について解説された。かつては「肥満＝見た目」の問題として扱われがちであったが、現在では脂肪肝、糖尿病、高血圧などの疾患を合併する「肥満症」として医学的な対応が必要な状態が増加している。特にコロナ禍の影響により、子どもの肥満症の割合は著しく増え、検診の結果からも 30 年前と比較して約 3～5 倍の増加が確認されている。

次に、内臓脂肪型肥満や異所性脂肪蓄積の問題、さらに胎児期の栄養環境が将来の健康に影響を及ぼす「DOHaD（Developmental Origins of Health and Disease）」の概念が紹介された。低出生体重児における早期の脂肪蓄積やインスリン抵抗性の発症リスクなど、出生前後のケアの重要性が改めて強調された。

また、平成 28 年から導入された PC による身長・体重成長曲線の活用により、全児童を対象とした肥満ややせの早期スクリーニングが可能になった点も紹介された。これは学校現場における予防医療の実践において大きな前進であり、早期介入への道を開いたと評価されている。

後半では、「やせ」や摂食障害の問題に焦点が移された。特に思春期の女子に多く見られる神経性やせ症や過食症、夜食症候群などが、米国精神医学会の DSM 分類に基づき紹介され、近年、わが国でもこうした問題が急増していることが報告された。

講演の締めくくりとして、「やせ」と「肥満」の両極端の課題に対し、身体的側面のみならず精神面からのアプローチが必要であること、そして学校現場では養護教諭、学校医、スクールカウンセラーなどとの連携が不可欠であることが強調された。また、現場の医療関係者間においても、両者を同等に扱える視点や交流の場がまだ十分でない点が課題として挙げられ、今後の支援体制の強化が求められると結ばれた。

本講演は、学校における子どもたちの健康をいかに守るかという視点に加え、社会や家庭、医療現場が一体となって支援を行う必要性を再認識させるものであり、参加者に深い示唆を与える内容となった。

知らないと損をするタバコの話

健康栄養学科　大久保　剛

2025 年 1 月 6 日、京都女子大学教授 宮脇 尚志 教授、京都女子大学管理栄養士 三好 希帆 氏による喫煙の危険性について啓蒙した講演会が行われた。

近年、喫煙の形態が大きく変化しつつある。かつて主流であった紙巻きタバコに代わり、電子タバコや加熱式タバコの利用者が増加している。さらに、若者の間ではシーシャ（水タバコ）が流行し、「たばこである」という認識が薄れつつある。このような背景のもと、喫煙の害が見落とされがちな現状に警鐘を鳴らす講演会が開催された。

本講演会では、特に将来妊娠・出産を担う世代の女性に焦点を当て、喫煙および受動喫煙が女性の健康、そして次世代に与える影響について、最新の研究とデータを交えて啓発が行われた。

講演の冒頭では、電子タバコやシーシャに対する誤解について取り上げられた。多くの若者が「電子タバコは害が少ない」「シーシャはリラックス効果があるから無害」と考えているが、実際には有害物質が含まれており、ニコチン依存や呼吸器への悪影響、さらには長期的な健康リスクを引き起こす可能性があることが強調された。特にシーシャは一回の喫煙で紙巻きタバコ数十本分の煙を吸い込むことに相当するとされ、そのリスクの大きさに多くの参加者が驚いていた。

次に、喫煙が妊娠・出産に与える具体的な影響についての説明が行われた。喫煙は排卵機能の低下、妊娠率の低下、流産や早産のリスク上昇、低出生体重児の増加などに関与しており、女性の生殖健康に深刻な影響を及ぼす。さらに、非喫煙者であっても、家庭や職場での受動喫煙により同様のリスクを負うことが明らかになっており、「煙を吸わなければ大丈夫」という認識が誤りであることが訴えられた。

また、講演では、将来的に子どもを望む女性が自らの健康を守るために、早期から喫煙を避ける意識を持つことの重要性が説かれた。加えて、周囲のパートナーや家族の理解・協力も不可欠であり、社会全体で女性の健康を支える環境づくりが求められるとされた。

参加者からは「電子タバコも危険だとは知らなかった」「身近な人にも伝えたい」といった声が寄せられ、喫煙に対する意識改革の必要性が実感された様子だった。

講演会の締めくくりとして、「たばこの害は見えにくいが確実に存在する。未来の自分と子どもの健康のために、いま行動することが大切である」というメッセージが送られた。

今回の講演会は、喫煙を「他人事」とせず、自分自身の問題として向き合うための貴重な機会となった。喫煙に対する正しい知識と認識を広めることで、禁煙の重要性がより多くの人々に伝わることが期待される。

学科企画　英語勉強会

グローバル・スタディーズ学科　熊谷　治子

学修支援センターでは、グローバル・スタディーズ学科による学科企画として、アクティブ・ラーニングを取り入れた「英語勉強会」を行っています。これまで参加した学生のみなさんの要望に応じて、英語の勉強方法の相談会や英語圏の文化の紹介などをしてきました。そして、この「英語勉強会」の醍醐味のひとつは、なんといっても充実したアクティヴィティーにあります。英語を使用しながら活動するカリグラフィーなどがそうで、毎年好評をいただいているイベントのひとつといえます。

本年度は、12月16日（月）①10時40分～12時10分　②12時10分～13時00分に、2号館1階の　学習室1において行ないました。参加者は、グローバル・スタディーズ学科1年のみなさんで、合計17名となりました。「クリスマスの雰囲気につつまれながら、異国の文化に触れることができた。」「なんか懐かしい感じがした。」「初めて体験してみたけれど、意外と楽しかった。」「クリスマス・カードを身近な人に送りたいと思った。」「自分のオリジナルの作品を作れて嬉しかった。」などなど。ひとりひとりが英語と異文化のつながりを改めて実感したことが伺い知れる内容の感想が寄せられました。カリグラフィーの世界に没入して、オリジナルのクリスマス・カード作りに挑戦している、みなさんの活き活きとした姿が印象的でした。

このように「英語勉強会」は、「楽しく学ぶ」をモットーとする英語や英語圏の文化に親しむための場です。英語の勉強は、ひとり机上の本と向き合うだけでは、なかなか継続が難しい場合もあるかもしれません。ともに意見を交換しながら、英語を学ぶ楽しさを実感つつ、互いの夢に向かって一歩前進しましょう。

福井由美子さん講演会

グローバル・スタディーズ学科　齋藤　陽

7 月 2 日（火） グローバル・スタディーズ基礎演習の授業で、ベストセラー旅本「ひとりっぷ」シリーズ、「ふたりっぷ」の著者 福井由美子さん（集英社 学芸編集部編集長）による講演会が行われました。実際にさまざまな国を旅しての経験と、旅をすることの魅力をご講演いただきました。また、ガイドブックには載っていないようなリアルなお話もあり、学生は真剣に聞き入っていました。本学科の学生は、海外研修・留学・インターンシップのいずれかを経験するので、質疑応答でも熱心に質問していました。

白百合教師塾

子ども教育学科　岡　敬一郎

白百合教師塾は、本学全学科の教員採用試験受験希望者を対象とする教員採用試験対策講座である。近年、教員採用試験は実施時期が数ヶ月単位で早まる早期化とともに、4 年次学生だけでなく 3 年次学生も受験できる複線化が進みつつある。こうした動きに対応すべく、白百合教師塾のあり方を模索しているところである。

2024 年度は春季休業期間中の 2025 年 2 月に、教職課程研究センターと共催の形で教職教養に関する講座を開催した。教育心理分野を心理福祉学科の渡邊兼行先生、教育法規分野を岡が担当し、教員採用試験一次試験を念頭において、講義や問題演習を中心に実施した。主な対象者は 3 年生であり、2025 年夏実施の教員採用試験を意識して真剣に取り組んでいた。さらに、2 年生からも参加の要望があり、教員採用試験への意気込みが感じられた。参加を希望する学生全員の都合が必ずしも合わなかったのは残念だったが、動画を撮影して欠席者が活用できるよう配慮した。

東北地方における教員採用試験は、いくつかの県・市で 3 年次受験が始まっているものの、早期化の傾向はまだ見られない。しかし、今後のさらなる多様化を見据えて、講座のあり方についてさらに検討していきたい。

クリスマスツリー飾りつけ＆シュトーレン試食

健康栄養学科　神田　あづさ

今年度は、校内では早くも 11 月にはツリーが飾られ始められ、センターでも 11 月 28 日（木）のお昼休みに飾りつけを行いました。協力してくれたのは、心理福祉学科 1 名、健康栄養学科 6 名、教職員 3 名、合わせて 10 名です。参加者は会話をしながら飾りつけを楽しんでいました。

その後、場所を DK スペースに移してドイツのクリスマスケーキであるシュトーレンをみんなで食べました。シュトーレンを食べる際に、ドイツのクリスマスケーキがなぜシュトーレンなのか？どのようにして食べるのかなどを話しながら食べました。

「シュトーレンが美味しかった。ツリーの飾りつけをみんなですることでクリスマスが近づいてきているのを感じられた。」「クリスマスの雰囲気を味わうことができ、シュトーレンを食べることができて良かった。昼休みの時間を使ってイベントを開催することで色々な人が参加できるのでこれからもやってほしいと思った。」との感想や、初めてシュトーレンを食した、と回答していた学生も多いことから、海外のクリスマス文化を知ってもらうことに少しでも寄与できたのではと思います。また、「ツリーの飾りつけをすることがなかったのでたのしかった。シュトーレンも初めて食べたが、おいしかった。一足先にクリスマスを楽しんだ。」や「小さいツリーも大きいツリーも可愛く素敵に飾りつけできた。イルミをつけて輝かせたらもっといいなと思う。シュトーレンもとてもおいしかった。幸せで楽しい活動だった。」との意見があったことから、この企画が学生生活の思い出になってくれたようで嬉しかったです。お昼休み時間での実施でしたので、あわただしく行われた行事ではありましたが、学生たちにとって短くとも充実した時間になってくれればと思って実施いたしました。そして、このツリーに学生とそのご家族の幸せを祈り、今年のクリスマスを過ごしました。

宗教委員会共催　クリスマスリースづくり

宗教委員会　佐藤　一樹

2024 年 12 月 4 日（水）に、クリスマスシーズン恒例企画である宗教委員会共催のクリスマスリースづくりが開催された。私にとって今回のクリスマスリースづくりは、なんと 6 回連続参加となる。毎年この時期にクリスマス気分を味わえる素敵な機会を頂けることに感謝しつつ、今年も有志の学生や教職員とともに、前日に旧泉修道院と大学の敷地内でリースの素材集めを行った。

しかし、今年は例年に比べて思うように材料が集まらず、少し不安を抱えながらのスタートとなった。当日は多くの学生が参加し、終始賑やかな雰囲気のなかでリースづくりが進んでいった。今年も毎年お世話になっている鈴木みゆき先生のご指導のもと、まずはゴールドクレストを土台に固定する作業から始めた。その後、西洋ヒイラギやモミなどの飾り付けに移ったが、作業を進めるうちに少しずつコツをつかみ、特に枝を固定する際のバランスの取り方がうまくなっていくのを実感した。

最終的に完成した私のリースは、これまでで最も満足のいく仕上がりとなった。木の実やクリスマスアクセサリーをバランスよく配置することで、華やかさも演出できたと思う。他の参加者たちも、最初は戸惑いながら作業を進めていたものの、次第に自分らしい飾り付けを楽しみ、完成したリースを手に満足そうな表情を浮かべていた。

材料集めには苦労したものの、その分、創意工夫を凝らしながら制作できたことが大きな収穫だった。来年もまた、この素敵な企画に参加できることを楽しみにしている。

２０２４年度
就活スタートアップセミナー＆就活プレミアムセミナー報告

キャリアリソース課　八木田　僚

【就活スタートアップセミナー】
2025 年 2 月 20 日（木）10：00～13：00
目的：自己分析・企業研究を行い志望動機・ガクチカ・自己ＰＲの完成を目指す。
【就活プレミアムセミナー】
2025 年 2 月 21 日（金）9：30～16：30
目的：参加者全員が模擬面接を体験し、自分の課題点を知る。

今年度の講座は就職活動が本格化する 3 年生の学生へ向けて開催した。まずセミナーを開催するにあたり、「学生が身につけることができる能力、考え方」に注目し「学生の自信・自己肯定感」と「就職活動でいかに自分の力をベストに出せるか」に焦点を当てた。最近では SNS やインターネット等の技術の進歩により他人と比べる機会・他社との競争の機会が増えたことにより、「人間の自己肯定感の低下」が顕著に表れているように感じる。本学の学生も例外ではなく自分の行動や今後の将来について強い不安を抱いているという相談を受けることが少なくない。そのような学生たちに何ができるか考えた際、自分に自信を持たせる講座や成功体験ができる講座を開催しようと考えたのが今回の講座の原点となった。

実際に開催したセミナーについて紹介する。まず「就活スタートアップセミナー」では自己肯定感 UP 講座（自分の強みセミナー）とセルフケア講座（ストレスを理解し対処するセミナー）、就職ガイダンス総まとめ講座を行った。セミナー内ではカードゲームを用いて自分の「短所」が実は「長所」としても生かすことができることや、就活でうまくいかないことがあっても立ち上がり再度挑戦するため、心を理解し向き合うという内容で実施した。学生たちはこれからの就職活動において大切な心構えを学ぶことができたようであった。また就職活動総まとめ講座は企業の探し方や就活の流れ、合同企業説明会参加についてなど 3 年生の就職ガイダンスで学んだことの振り返りとともに具体的な就活の進め方について再度確認することができた。

「就活プレミアムセミナー」は面接練習実践編と称し、実際に就職情報会社の方の協力のもと実践的な面接試験を行う企画である。第一部では面接をしたことの無い学生を対象に面接練習、第二部は集団面接や個人面接を行い、自らの課題点を知るきっかけづくりや、成功体験を積むことができた。この２つのセミナーは参加学生にとって有意義なものであったと実感している。今回のセミナーで得た心と向き合う力、面接の心得を生かし悔いの残らない就職活動を行ってほしい。

就活スタートアップセミナ
ー自分の強みを知る講座

就活プレミアムセミナー
面接練習を受ける学生たち

就活プレミアムセミナー
第一部・面接練習体験

学生相談部門

2024 年度【学生相談室】報告

１．開室日数と担当

2024 年度は学生課窓口での予約から Google フォームでの予約のみでの対応に変えました。

教員兼任カウンセラー1 名と非常勤カウンセラー2 名の計 3 名の体制で、合計開室日数は 148 日（2023 年度 171 日）でした。週 5 日開室できない週もあったため、合計開室日数は少なくなっています。

（2024 年度：相談室担当）

月曜日 9：00～17：00 （非常勤：伊藤亜綾）
火曜日 〖前期〗13：30～15：40 ／ 〖後期〗10：40～12：40 （兼任：茂木）
水曜日 9：00～17：00 （非常勤：伊藤亜綾）
木曜日 〖前期〗13：30～14：30 ／ 〖後期〗10：40～11：40 （兼任：茂木）
金曜日 9：00～17：00 （非常勤：伊藤律子）

（開室日数）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2019 年度	12	18	18	17	9	12	18	18	16	18	8	11	175
2020 年度	6	10	14	12	13	7	20	20	17	16	8	12	155
2021 年度	10	15	20	20	12	14	17	18	18	17	11	10	182
2022 年度	15	18	19	16	10	13	17	16	17	15	11	11	178
2023 年度	13	18	20	19	6	12	19	17	14	17	7	9	171
2024 年度	9	18	17	20	6	9	15	16	12	14	9	3	148

２．学生相談室の利用者

利用者の実数は学生が 34 名で、卒業生（在籍時利用有）の利用が 2 名ありました。教職員・保護者の利用はありませんでした。昨年度に比べて学生の利用者の実数は減っています。開室日数が少なかったこともありますが、月別の利用者実数および面接回数、合計面接回数が減少しました。

年間の面接回数が 1～3 回の学生は 21 名、4～9 回の学生は 7 名、10 回以上継続的に利用している学生は 6 名（昨年 10 名）でした。Google フォームから簡単に予約ができるようになったため、継続的に予約をしなくとも、「また何かあったら相談します」というような単発的な相談が増えていることが考えられます。

利用者（実数）の内訳

学科／学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合　計
人間発達/ 子ども教育	0 (2)	2 (0)	0 (2)	1 (1)	3 (5)
心理福祉	3 (2)	6 (5)	4 (7)	5 (9)	18 (23)
健康栄養	3 (2)	1 (3)	1 (2)	2 (2)	7 (9)
グローバル・スタディーズ	3 (3)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	6 (4)
合　計	9 (9)	10 (8)	6 (11)	9 (13)	34 (41)

（ ）内は 2023 年度の実数

月別新規来談者と利用者実数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2024 年度	**11**	**5**	**2**	**5**	**1**	**2**	**4**	**2**	**1**	**1**	**0**	**0**	**34**
利用者実数	**11**	**9**	**8**	**10**	**5**	**8**	**11**	**11**	**9**	**7**	**5**	**2**	**平均 8**
2023 年度	13	7	4	0	1	2	7	2	3	1	1	0	41
利用者実数	13	17	15	14	6	10	19	16	15	10	6	5	平均 12

月別面接回数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2019 年度	12	32	29	34	11	21	29	32	31	30	9	12	282
2020 年度	11	25	40	34	30	27	59	57	37	42	21	29	412
2021 年度	26	45	51	55	30	27	48	57	58	47	29	23	496
2022 年度 (☎)	24 (4)	47 (9)	47 (10)	49 (7)	18 (4)	39 (8)	39 (7)	35 (7)	38 (5)	33 (6)	25 (8)	23 (9)	417 (84)
2023 年度 (☎)	26 (2)	37 (4)	33 (3)	36 (5)	12 (4)	18 (3)	34 (7)	34 (4)	25 (0)	22 (2)	15 (2)	12 (0)	304 (36)
2024 年度 (☎)	**18**	**15**	**14**	**21**	**5 (1)**	**13**	**20**	**25**	**15**	**14**	**9 (2)**	**2**	**171 (3)**

（ ）内は電話相談の件数

相談内容別の面接回数

	学業	大学生活	進路	対人関係	性格	心身の健康	家族	ﾊﾗｽﾒﾝﾄ	その他	合計
2019 年度	6	111	22	37	1	84	18	0	3	282
2020 年度	4	131	22	32	10	161	38	0	14	412
2021 年度	6	217	21	46	21	139	40	0	6	496
2022 年度	4	188	77	27	11	100	8	0	2	417
2023 年度	5	136	45	23	3	70	18	0	4	304
2024 年度	**5**	**78**	**13**	**11**	**11**	**40**	**8**	**3**	**2**	**171**

３．学生相談室の活動

（1）Tea Hour ＆ 企画・研修

2020 年度のコロナ禍以降、Tea Hour や企画・研修といった人を集めての活動は実施していません。

（２）みやぎ学生相談連絡協議会

宮城県内の 13 大学の学生相談関係者が集まる会議で、年 2 回開かれます。

第 86 回（8/5）の当番校は宮城学院女子大学、第 87 回（2/27）の当番校は宮城教育大学でした。今年度は、いずれの回も出席することができませんでした。

（３）日本学生相談学会

本学は日本学生相談学会の機関会員です。そのため、学術大会（学生相談に関する研究発表、講演会、ワークショップ、会員集会等）、全国学生相談研修会（全国の高等教育機関において学生支援に携わる教職員および学生相談カウンセラーを対象とした研修会）および学生相談セミナー（学生相談の今日的なテーマに関するセミナー）に機関会員として参加できます。

2024 年度は、日本学生相談学会第 42 回大会（5/25～27）が東北大学で開催されたため、伊藤亜綾先生と茂木が参加しました。第 62 回全国学生相談研修会（11/15、11/23～24）には伊藤律子先生が参加（p.16 報告参照）、第 63 回学生相談セミナー（3/1）には茂木が参加（p.15 報告参照）しました。

「第 63 回学生相談セミナー」報告

心理福祉学科　茂木　千明

テーマ『学生相談のこれまでとこれから「高等教育」について考える』

講演Ⅰ：高等教育・学生相談に関する法的背景（講師：岩田周 弁護士）

高等教育に関する法的背景、そして学生相談に関する法的背景が概観されました。改めて、文部科学省「大学における学生生活の充実方策について（報告）－学生の立場に立った大学づくりをめざして－」（2000，通称「廣中レポート」）、JASSO「大学における学生相談体制の充実方策について－「総合的な学生支援」と「専門的な学生相談」の「連携・協働」－」（2007，通称「苫米地レポート」）、日本学生相談学会「学生相談機関ガイドライン」（2013）の考え方が必要とされることを認識しました。学生支援に携わる教職員にはぜひ読んで理解してもらいたいと思いました。

さらに、学生相談をとりまく法的諸問題として、「雇用関係」では無期転換ルールや雇止めについて、「個人情報の取り扱い・守秘義務」では要配慮個人情報の取り扱いや学内及び学生相談におけるプライバシーポリシーの見直しが必要であること、「学生に対する安全配慮義務」として過失の予見可能性について、「障害のある学生に対する対応」として合理的配慮の提供の義務化について、また「多様な相談に対する対応」については例を挙げて話されました。

講演Ⅱ：学生相談のこれまで（講師：齋藤憲司 東京科学大学教授）

これまで長年に渡って学生相談に携わってきた講師の活動のあり方が話されました。ここでも「廣中レポート」「苫米地レポート」が取り上げられ、これからの学生相談・学生支援のためとして『学生相談ハンドブック：新訂版（2020）』及び『私の学生相談－日々の臨床と全国との連動（2024：学生相談研究，45（2），102-127.）』に基づき、学生相談に対する考え方が述べられました。

座談会：学生相談のこれから（登壇者：齋藤憲司 氏、山本有恵 氏）

山本氏は、最近の子どもの事情をあげ、初等中等教育と高等教育のギャップ、高等教育への「問題」の持ち越しなどから、多様な学生への対応に対する懸念を述べました。このような学生に対し、高等教育としての学生相談はどのように受け止め、対応していくかという問題提示に基づいて、議論が進められました。

第 62 回全国学生相談研修会に参加して

学生相談室　伊藤　律子

全国学生相談研修会は、日本学生相談学会（jasc）が毎年開催している研修会です。コロナ禍以降はオンライン開催でしたが、昨年度からオンラインと対面の二部構成となり、11 月 15 日の第一部は特別講演と小講義二つをオンラインで、23・24 日の第二部は専門分野よる分科会を対面で実施しました。参加者は、学生相談を行っているカウンセラーはもちろん、教員、窓口の対応をしている職員、キャリア支援の相談業務を行っている職員、直接は相談業務を担当していない部署の職員など、このほかにも学生に関わる様々な職種の方が参加しており、多職種の意見が聞ける研修会となっています。

オンライン開催の第一部では、“意志”を哲学的な概念から捉え、近代の人間像を見直した特別講演を興味深く拝聴し、ほかにも大学における合理的配慮や、コロナ後の学生のキャリア観について学びました。どの講義においても、今現在の大学や学生の現状と照らし合わせながら具体的な傾向や対応策を学ぶことができ、実践に活かすことができる内容となっていました。

対面開催の第二部では、「学生相談のなかでの描画の活用」がテーマの分科会を選択しました。面接に描画を活用することで、言葉による面接とは違う作用点から自我を見つめることができる、という描画の側面を学びました。また、グループで事例検討も行われ、描画からどんな人物がイメージされるか、アセスメントはどのように考えられるかなどを共有し、専門的なトレーニングを体験することができました。対面での開催のため、参加者が自身の大学で実践していることや、それぞれに感じている問題点などについてもざっくばらんに話し合うことができ、日々の学生相談業務に向き合う力になったと感じています。

学生相談室での面接は主に一対一で行うことが基本であり、学生相談員としてはその専門性を高めることがより良い支援につながると考えます。一方で、現代の大学の状況や学生の現状について理解し、常に新しい情報を取り入れながら両方の視点で学生支援を継続していくことも必要だと感じています。

この年に一回の研修会では、そのどちらの視点からも学びを得ることができる貴重な機会だと思います。

令和７年５月発行

学修支援センター報

第 11 号

編集・発行　仙台白百合女子大学　学修支援センター

〒981－3107　宮城県仙台市泉区本田町６－１

電話 022－374－5073

HP:https://sendai-shirayuri.ac.jp/campuslife/learning_support.html